

あすみの「」で囲まれたセリフの収録をお願いします
音声ファイルの最初にはお名前をお願いします。

『シーン1…再開』

星来「先輩？あすみ先輩ですよ？」

あすみ「久しぶりね星来。でも今の私は天帝。転生したのよ。」

星来「天帝……でもどうしたんですか？そんなに

金びかになっちゃって……」

星来「卒業してから色々あったんですか先輩？」

あすみ「うん。まあね。」

星来「大人の階段昇ったんですね……」

それ以上の階段を昇っちゃった感じですが……」

星来「あれ？手が増えてますよ？

まさか成長期ですか？」

あすみ「星来は相変わらず面白いわね」

星来「先輩こそ……金びかで丸いわつか付いてて……」

なんだかアスラみたいですね……」

あすみ「そう、私はアスラの帝（みかど）」

星来「えっ？」

私はあまりの事に辺りを見回す。

同じく金色の少年……あれは……ルシフェル？

6体のルシフェルが睨んでいる。

星来「ルシフェル!？」

天帝「そう、貴方は6体、私は5体、競って狩ったよね。」

結局勝てなかったね。」

星来「なっなんで……」

天帝「今の私はアスラの帝、これらは手下達。今の貴方の同僚ですよ。」

星来「えっ……？同僚？」

天帝「私と貴方が狩り過ぎて6体しか居なくなっていました。」

天帝「彼らはレアで、稀にしか生まれないのに……」

星来「アスラ……こいつら……許せない奴らなんですよ。先輩……」

天帝「気持ちには解ります。仲間が何人この者どもに殺されたか……」

星来「先輩、そもそも……何でアスラがイズモにいるんですか？」

天帝「サンサーラの風が貴方には吹いています。」

星来「サンサーラ？」

天帝「最も不幸な魂は、時としては極限へと至る……」

天帝「貴方は選ばれた不幸な魂、そして生き延びた最も高尚な魂。」

天帝「そう、貴方には全てを知る資格があります。」

サンサーラの……この世界の真実を……」

星来「真実……」

『シーン2…咲夜と話す』

咲夜「ねえ、天帝……アンタ達何がしたいの？」

咲夜「人類を皆殺しにして、何か良いことあるの？」

天帝「苦しみ、悲しみ、全てから救ってあげたい……」

咲夜「はあ？」

天帝「守ってあげたい……」

咲夜「何を言ってるの？」

天帝「もう、苦しまないで良いのです。」

天帝「セラ……」

セラ「はい？」

天帝「セラ……どうしたのですか？」

セラ「えっ？誰でしたっけ？」

天帝「悲しみ苦しみに耐えきれず……」

記憶破壊を起こしたのですね。かわいそうに……」

空「バイラヴィ……怯えるな……震えを止める。」

天帝「……！！？」

天帝「空……貴方の活躍は熊耳（くまがみ）より聞いております。」

天帝「最も不幸な魂は、時としては極限へと至る……そうでしたねセラ」

セラ「そうでしたっけ？自信は無いですが……そんなような気がします。」

空「僕が……不幸？」

天帝「貴方は自分の子供をクシャトリアにしたくない親に

買われ転校したと記録にはありました。」

天帝「育児放棄された挙句……母親に売られた子……それが貴方ですね、空」

咲夜「空……」

『シーン3…敗北』

天帝「空、よく聞きなさい。アスラはクシャトリアを……人間を殺します。」

天帝「しかし、それがサンサーラの理（ことわり）」

空「理……そんなバカな事……」

天帝「咲夜がクシャトリアになった時点で死ぬ運命だったのです。」

空「そんなつ、そんなバカな！」

天帝「選ばれし者として戦い死んでいった……明弘さんも同じです。」

バイラヴィのレーザーナイフが天帝を切り裂く。

天帝「これで貴方は卒業。」

天帝「ブラーフマナ『空』……いえ、

天帝『空』……あなたにサンサーラの祝福があらん事を……」

天帝「セラ、二〇〇年……意外と短かったですね、さようならセラ……」

セラ「えーつと、あすみ先輩。さよならです。」

天帝「貴方の本当の戦いはこれから……ですよ。」